

御挨拶

この度、2023年6月25日に、公益財団法人 日本体操協会の理事を拝命致しましたので、ご挨拶申し上げます。

とても大きな任務を任されたことを光栄に思いつつ、緊張で溢れております。皆さまには、日頃よりご支援・ご教授頂きました賜物ゆえに、感謝の気持ちでいっぱいです。

一見、繋がりが無いように見える『体操』のジャンルに、“音楽家 (声楽家・音楽教育家)” が関わることは、日本体操協会の中でもかつてない試みのようで、日本体操協会の変革の一手として大きな期待を寄せられつつ、拝命致しました。

しかし、よく考えてみますと『体操』と『音楽』は、共通項だらけなのです。両方とも、「技術的観点」と「芸術的観点」で評価されるものだと思います。

『音楽』では、音や発声の追求が、身体や呼吸の使い方の追求に繋がり、正に、『体操』の技の追求と類似する部分があります。

また、両方とも、技術習得の際には、『感覚』という言葉をよく使いますが、『感覚』の追求こそ、両ジャンルの「美しさの追求」に繋がってくるものだと思います。即ち、『体操』も、『音楽』も、「芸術」のジャンルなのです。

人間一人一人が持つ、素晴らしい『芸術的感覚』を引き出すこと。

そして、『体操』や『音楽』を嗜むことが、特別なことではなく、どんな境遇の人でも可能な世の中を実現すること。

こんな世の中を実現させるためにも、私は、世の中のために 尽くして参りたいと思います。

最後に、まだまだ若輩者ゆえに、皆さまからは、たくさんのご意見や、ご指導・ご鞭撻を承れましたら幸いに存じます。

どうぞどうぞ、引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。

公益財団法人 日本体操協会 理事 佐々木庸子